

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100992		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム 和楽の家 吉井		
所在地	岡山県赤磐市黒本178-15		
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	岡山県岡山市北区津高628-1		
所在地	特定非営利活動法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
訪問調査日	平成29年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様に自分らしい生活を送っていただくために安らぎのある家庭的な生活ができるような支援を心がけている。①日笠クリニック(認知症専門医師の往診) ②個別外出の充実(外食・お誕生日・買い物・ドライブ) ③季節のイベント各種/ボランティアの慰問 ④スタッフの研修制度の充実</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>さんさんカフェ(認知症カフェの呼称)の開催に入居者や家族、福祉や医療の専門職、ボランティアが集い、交流、情報交換、悩み相談をする機関として、地域密着型サービス事業所として地域に根付き、職員も以前に増して専門職としての自覚・自信が窺えます。限られた人数の職員が通院介助・排せつ介助と日々の生活支援に追われながら、入居者がゆったり過ごせる様コミュニケーションを大切にし、入居者・家族の要望を取り入れながら現状に即した介護計画の下、支援に努めている様子が窺えます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100992		
法人名	株式会社 桜梅桃李		
事業所名	グループホーム 和楽の家 吉井 桃ユニット		
所在地	岡山県赤磐市黒本178-15		
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	岡山県岡山市北区津高628-1		
所在地	特定非営利活動法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
訪問調査日	平成29年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に自分らしい生活を送っていただくために安らぎのある家庭的な生活ができるような支援を心がけている。 ①日笠クリニック(認知症専門医師の往診) ②個別外出の充実(外食・お誕生日・買い物) ③季節のイベント各種/ボランティアの慰問 ④スタッフの研修制度の充実
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念、ホーム理念に基づき介護実践を展開している。	会社理念を基にしたホーム理念の振り返りを行い職員間での共有に努め、実践に繋げている様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩の際に挨拶等を交わしたり、さんさんカフェにて交流を図った。地域の方が家事の手伝いに訪問してくれている。	さんさんカフェ(認知症カフェの呼称)では50名からの参加があり、認知症に対する関心も深く、地域の方々の相談を受けるなど地域の一員としての交流に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やさんさんカフェで認知症についての理解、関わり方をお伝えしたり、交流を図っていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の方、御家族からの要望や助言又は地域の情報をお聞きし活かせるよう努めている。	さんさんカフェを開催以降の運営推進会議で地域、家族の方から災害に関する提案や意見・協力を受け活かす様に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	赤磐市健康福祉課(本庁及び吉井支所)、包括支援センターと日頃より連携を密に図っている。また、2ヶ月に1回のケアマネジャー連絡会で地域のケアマネジャーとも連絡や情報共有を図っている。	前年度、行政より「認知症カフェ」への取り組みについて話があり、今年度実施にあたり連携を密に取りながら行い、より一層協力関係が深まる様努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本社及び事業所での研修会(勉強会)の実施。また、日頃より身体拘束を行わないことの重要性をユニット会議等で伝えている。	日常生活を大切にし、施錠しない暮らしの支援に努めています。身体拘束と安全面から全職員で取り組み、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での研修会(勉強会)の実施。また、高齢者虐待について、ユニット会議等で話し合いを行ったり、実際のケア場面での身体的・心理的等の虐待に注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による研修会を行い、権利擁護に関する知識を深め、活用できるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行うのは、本社役員、部長、管理者で行っています。 契約書の説明を行い、不明な点は随時質問をしていただき、説明し、ご理解と納得をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議、またケアプラン見直しの際に様子を伝え、御家族の意見要望を頂き、改善できるよう取り組んでいる。	意見や要望を出しやすい様に、普段からコミュニケーションを大切にし、それらを反映するようシステム作りに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の生活向上会議やアセスメント面接時。その他、随時意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 本社での対応が必要な場合は、相談しながら運営している。	職員からの意見や要望を聞く機会を設け、その都度必要な要件について検討し、反映する様努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力に合わせた配置や労働条件の整備に努めている。また個々の職員の状況に考慮した勤務シフトの作成にも努めている。本社にも要望を出しながら、働きやすい環境にできるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人及び事業所が計画する社内外への研修や職員が希望する研修への参加に努めている、 職員が共有できる報告会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、社内での研修、相互訪問等又市内のGH連絡会などへの参加を実施しながらケアの向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネジャー等より、フェイスシート、生活歴シート、ケアプラン等の情報を、職員間で共有すると共に、更なる本人の不安解消の為、しっかりと傾聴し、関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の家族関係や今までの介護の経緯及び要望、想いを敬意を払って伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族との話し合いを行い、今一番必要と思う支援を優先するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、洗濯、掃除等、家庭で行うことは、自分の出来る範囲で行っていただき、自立支援を行いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族へご様子等の情報をお伝えさせていただくと共に、御家族から職員へも以前の様子等の情報をいただき、ご本人への理解を深め、双方が共に支援していく関係になれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の誕生日には自宅又は家族宅への訪問、昼食は本人希望メニューにて御家族と職員と共にお祝いをさせていただくなど馴染みの人や場所への認識が継続できるように支援を心がけて努めている。	馴染みの関係や本人が大切にしてきた習慣など継続できるよう、認知症の症状が進行しても職員の同行を提案するなど途切れないよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格の把握を行い、入居者同士での会話や有意義な時間が継続できるよう職員が介入しながら穏やかな空間維持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、今後も何かあれば可能な限り相談にのらせていただき、お手伝いをさせていただき旨をお伝えしている。 退居された後も連絡をさせていただきご様子を伺う等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に御本人の思い、御家族の思い、意向の把握に努めている。	思いや意向の把握の困難な方には、日々の関わりや生活歴やエピソード・長年培ってきた暮らしの習慣と現在の状況を加味し、本人本位に検討するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活歴、価値観を少しでも継続できるように努めながら、本人の訴えや思い、生活向上が出来るようケアマネジメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活リズム等を大切に考え、現在のご本人を理解し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意見や要望を聞き取り、ケアマネジャー、他職員にて話し合いを行い、現在必要である介護計画を立案している。	日頃の支援経過のもとに、残存能力を引き出し、入居者が希望する暮らしを維持するためチームで現状に即した介護計画に取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容以外にも、その日の様子や言動等を個別記録に記載し、情報共有したり、次のケアプランへ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の状態、御家族の意向を尊重しながら柔軟な対応に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームと一体となり、楽しんで生活できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携協力医療機関との連携をとり、緊急時でも対応でき、御本人や御家族の方にも安心して頂けるよう努めている。	内科医による週に1回往診がありまた、近年重要とされる歯科医・衛生士による口腔ケアにも力を入れ、適切な医療を受けられるよう支援している様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調等の様子を記録に残し、変化があればすぐに報告や相談を行い指示を受け、適切な対応が行えるようにしている。 また、看護師とは24時間のオンコール体制で連携を図りながら医療との連携に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の看護師やソーシャルワーカーに必要な情報提供を行い、早期退院に向けて連携を図っている。面会にいかせていただき退院可能になるよう相談できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の方針を契約時呈示している。また出来るだけ早い段階から主治医・御家族・管理者で話し合い、情報交換や相談に努め、ターミナル期には、本人、家族と主治医、意思を確認し合うという方針を共有している。	最後まで看取りを行う方針で取り組んでいます。地域資源の不足などから夜間の看取りについては、救急搬送での対応を余儀なくされています。家族の希望があれば、グループホームでの寝泊りも可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置を行い、初期対応が出来る環境は整えている。転倒・誤薬等、急変時には必ず看護師へ連絡を取り初期対応に努めている。 消防署と連携を図り、救命救急法の講習会を開催して実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。安全に避難できるように支援を行っている。 火災等の災害が起こった時には、近隣住民の方々にも避難誘導の協力が得られよう体制を整えている。	避難の際の基準認識の見直しをするよう市から通達があり、高齢者施設では、避難準備が発令された時点で非難を開始する。また火災の場合の避難誘導など職員間で再確認しています。	近隣住民の協力要請を実践に繋げ、又、火災・災害の種類によって、通報手順が異なりますのでマニュアル化して全職員で共有されることを期待しています。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切に会話やケアの声掛け一つにしても安心して生活していただけるように努めている。	少人数で家庭的な介護ゆえの慣れ、親密さの中での職員の無意識の押しつけなどないようお互いに注意するよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を導きだせるような環境作りに努めている。また、どちらか選択をするような時でも、本人が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物等の訴え時、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容サービスを利用する。お化粧、スカーフ等、個々の好みへの支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りで食事提供、五感で感じれる食事環境に努めている。 盛り付けや後片付けを職員と一緒にやっている。	差し入れていただく野菜や果物など季節感を採り入れながら、また入居者の食べる様子を想像しながら、食事作りを楽しんでいる様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握、必要な方への個別支援(高カロリー食等)を含め、トータルバランスでの支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。 義歯を預かり洗浄を行い、清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの声掛けを行ったり、安心のためパッドを使用する等して自信のつくような排泄支援を行っている。	夜は睡眠を重視しているが、日中はトイレでの排泄を基本に、排泄障害を誘発する疾患・服薬の有無や本人の排泄パターンを職員で共有し自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食やしっかりと体を動かすような働きかけを行っている。それでも難しい方は、看護師と相談して、2~3日目で緩下剤の服用も行いながら様子みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回が、様々な要因で入られていない方をその日に優先しているが、その日がいいと思えば入浴してもらっている、特に時間も決めていない。又個々の希望により柔軟に対応している。	体調・タイミングに配慮しながら、お湯は一人ひとり入れ替えて湯量・湯温を調整しながら、気持ちよく入浴を楽しめるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に温かい飲み物を飲みながらお喋りしたり、安心する声掛けを行うよう支援している。本人の生活リズムを崩さないようにも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を受け、変化があれば記録に残し、看護師や薬剤師へ連絡している。服薬時には2人対応での確認。個々の薬の内容はケースファイルに整理しいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた役割分担(洗濯干し・掃除)や生活の中で楽しみを持っていただく為に、趣味活動(ピアノ・歌・散歩)等を行い、気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から外出等の要望があれば、天候にもよりますが、なるべく外へ出るように心掛けている。遠方の外出は、御家族の協力も必要なこともある。	体調や天候など配慮しながらの外出になる為、日常的とはいえないが、近所の散歩は出かけられるように努めています。	症状の異なった入居者の日常的な外出支援は大変困難な事ですが、これからは家族やボランティアの協力を得ながら、支援に取り組まれることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、現在現金はお預かりしていない。全て施設の立替えとなっています。少額の現金を持たれている方から要望があれば、ご自身で支払いをしていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人より、電話を架けたいとの要望があれば、対応させていただいている。また、御親族等から電話が架かってきた時も同様に御本人へ繋いでお話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、季節の歌等を貼ったりして居心地よく生活していただけるように工夫をしている。	日中過ごす居間には入居者の混乱を防ぐ対策として、「便所」などの大きな表示がしてあり、特に「光」に対して太陽光が届きにくい所は、電気で明るめに調整するなど特に注意を払っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性や性格等を配慮しながら、気の合う利用者同士が過ごせるようにテーブル席を決めたり、独りで過ごせるようにソファ等の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が慣れ親しんでいる、家具、写真、テレビ等を持参している。また、その時々によって必要な物があれば、御家族に相談させていただくように対応している。	限られたスペースの中に、安全と快適さ(就寝時、各部屋に濡れタオルをハンガーに掛け保湿するなど)に配慮し、居心地よく過ごせる工夫に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで段差なく過ごせる屋内であり、共用部分には手すりが設置され、歩行の不安定な方にも安全に移動できるようになっている。トイレ表示や各居室の入り口には表札でわかるように示し、安全で自尊心を保てる環境作りに努めている。		